



【シリーズ】大山所長の「自分の健康は自分でまもろう」

「君は、メタボで肝ガンが起こることを知っているか？」

体の中で最も大きい臓器が「肝臓」で、成人男子で約1600gです。肝臓は腸から食事の栄養素を取り入れ、全身の臓器に役に立つ物質に加工して送り出す、一大化学工場です。血液の成分、各種ホルモン、免疫体などを作っています。さらに、余剰の栄養素を脂肪として貯蔵し、糖質をグリコゲンに替えて貯蔵し、必要に応じて放出します。さらに重要なことは、有害物質の解毒や老廃物の処理もしているということです。

2005年の国立ガンセンターの調査によりますと、図1に示すようにわが国における原発性肝臓ガンによる死亡数は年間約3万4千人（うち男性:2万3千人、胃がん、大腸がん、肺がんに次いで4位）に上ります。そのうち、95%が肝臓の細胞から発生する『肝細胞ガン』、4.7%が胆汁を流す胆管の細胞から発生する『肝内胆道ガン』です。ほかのガンが肝臓に転移することがありますが、これは転移性肝ガンであって、肝臓そのものから起こる原発性肝ガンとは別に考えなければなりません。今回は、原発性肝ガンについてお話しいたします。

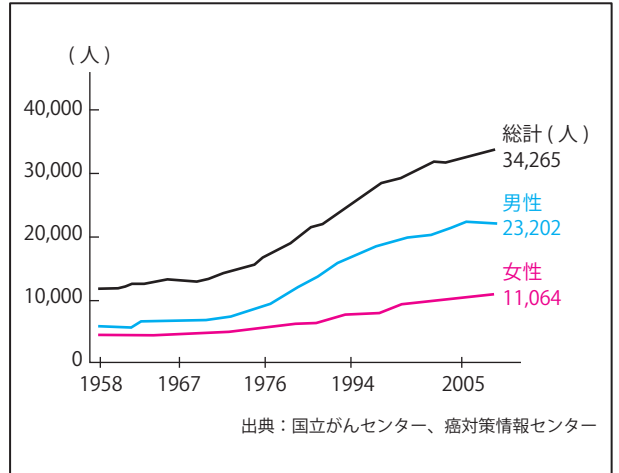
血液製剤を用いてB型肝炎ウイルスが感染し、肝ガンとなり、その補償について患者団体が製薬会社と国を訴える事件がありました。図2のとおり、C型が最も多く次いでB型ですが肝炎から肝硬変になって、ガンが発生することは良く知られています。アルコールの飲みすぎで肝硬変となり、肝ガンを起こすケースは東洋人より西洋人に多く見られます。アルコールの処理に疲れて脂肪肝になると、B型、C型に限らず、その他のタイプでもウイルス肝炎になりやすい事実があります。

しかし、問題となっているのはメタボリック症候群で、図3のとおり、アルコールを飲まなくても脂肪肝になり、ウイルス感染がなくても脂肪そのものが炎症を起こし、肝硬変症となって肝ガンになる人が増えたことです。半世紀前まで、日本人で酒を飲みすぎて肝硬変になる人は例外的だ、といわれ肥満から肝臓がばてて肝硬変になることも、考えにくいことでした。ところが、食べすぎで栄養過剰で脂肪肝から肝硬変になる人が増えてきたのです。生活環境の変化は大きなインパクトなのです。

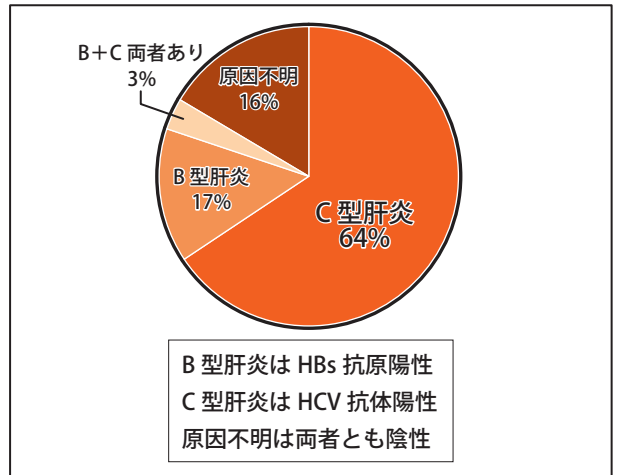
【図3】の説明

- ①食べすぎと運動不足による肥満は腹腔内の内臓脂肪を増加させる。
- ②内臓脂肪はインスリンの作用で合成されるが、内臓脂肪が貯まるとインスリンの感受性が低下するので、すい臓は懸命にインスリンを増産する。
- ③そこで、肝臓の細胞の中にも脂肪が増えてくる。
- ④脂肪細胞内ではホルモン様物質である様々なサイトカインが作られ、過剰になると免疫異常を起こし自分の体に謀反を起こすものもある。また、体の中の酸化作用はエネルギー産生や殺菌作用に必要なのだが、過剰になるとストレスとなって正常な組織を壊してしまう。詳細は別な機会に述べるとして、これらが癌化のきっかけとなっているのだ。

【図1】増え続ける肝臓（死亡数）



【図2】肝臓のリスクとしてC型、B型肝炎などのウイルス感染による慢性肝障害がある。



【図3】脂肪肝から肝硬変・肝臓へ

